

「生物多様性を守る、新しい力」  
満員御礼で無事終了

【12/19 きたネットフォーラム2017】

2017年は「環境保全の担い手をどう育てて行くのか」がテーマ、メインゲストは、北海道大学の中村太士教授でした。基調講演では「森・川・海」人の繋がりで、北海道の生物多様性を守る」と題して、知床の河川に多数存在するダムによる、海と陸とのつながりの象徴であるシロサケ、サクラマスなどの遡上が妨げられ、また水温上昇など様々な状況変化で、生息環境が阻害されているという問題が、公開の壁、既存マニュアル、観念の壁、合意の壁、縦割りの壁という4つの壁をどう乗り越えて活動してきただかという、具体的な「重話」でした。例えば、非公開だった会議を公開したこと、関わる一人一人が業績と責任感を持って発言するようになったこと、

「担い手」の育成は、知恵を絞り合える、良い議論を戦わすことができる「場」をつくること、緊張と融和と実行と反省がきりがちでできる環境を作れば、人は放っておいても自分で進化していく、その場を提供することが重要というお話でした。

緑くハバードレカスというチームでは、羅臼町観光協会の池上美穂さんから、漁業者が観光ガイドを務めることで、自然を守ることに重要な役割を自ら学び、環境保全の意識が高くなったというお話。知床博物館の山中正実館長からは、「担い手を雇用する場」が重要というお話がありました。行政の担当者が1～2年で異動してしまう現状の中、継続的に地域の課題解決に関わる人、組織が地域にあるかないかで、活動の力は大きく異なるそうです。一つの自治体での雇用は難しいとしても、ウトロ町と羅臼町が一線に間違っていている知床財団の例もあり、近隣自治体が共同で地域で専門家を雇用する仕組みを考えたという提案されました。

研究者、環境団体、行政職員、農・漁業者、住民、学生、地域に関わる全ての方が進化できる「場」から、新しい力が育ちます。宮島沼水鳥・湿地センターの牛山京日さん、札幌ワイルドサーモンプロジェットの有賀望さんをはじめ、各分科会の登壇者に「場」を作るリーダーの力を感銘しました。分科会Aは、酪農学園大学実践野生動物学研究室の学生チームが運営に関わり、準備、進行、報告まで担当してくれました。参加者は老若男女のバランスもよく、最後の全体交流会、懇親会まで、新しい予感に溢れるフォーラムとなりました。



上開会を終了後に、みなさまありがとうございました。  
下左：中村太士教授（北海道大学大学院農学研究科）  
下右：全体交流会 野生動物への愛や問題についてのアンケート

申請書の書き方講座が  
好評でした

【9/30 市民活動助成セミナー2017】

今年度は、第一部で、共同主催であるセブンイレブンを記念財団の小野弘人さん、講師に「ここがキモ！申請書の書き方講座」、第二部で、全国対象5団体・北海道対象3団体の助成制度担当者による制度説明会、個別相談会を行いました。助成セミナーも15回目、ここ数年は、環境分野にとどまらず、団体を立ち上げたばかり、助成申請をしたことがない、という参加者が多く、今回実施した講座の要望も多かったと見受けられます。今回の個別相談会の参加者からは、わかりやすかった、申請にトラブります、という声をいただきました。

一方、個別相談会の参加者は多くありません。具体的にこの要件でこの助成団体に出したいということがある、助成担当者や話をしたいという情報収集すること、今後の活動に必要なプラズマになりまわす。助成団体が市民活動の現状やニーズを知る機会にもなります。具体的な案件がある場合は、アドバイザーのサポートの整理や、実務的なアドバイスも受けられます。ぜひご利用ください。

【2017セミナー助成団体】  
一般財団法人セブンイレブンを記念財団・独立行政法人環境再生保全機構・株式会社ラッシュシャパン・日本郵便株式会社、トヨタ自動車株式会社・北海道e-水プロジェクト協働事務局、札幌市市民文化局市民自治推進室、一般財団法人前田一歩財団  
（個別相談会のみ参加）  
認定NPO法人北海道NPOアワード

「ラブアース・グリーンアップ  
in 北海道」2018年度の  
活動がスタートします！



団体や企業（会社や店舗）、学校、町内会などで実施する、身近な場所のこみ拾い活動をHPから登録ください。

身近な場所をキレイにするこみ拾いは「北海道」をキレイにすること、豊かな自然を守るための活動です。

「こみ拾いビーチウォーク開催決定」  
日にち／6月9日(日)  
場所／石狩市石狩浜（札幌から送迎バス運行予定）  
共催・協力／NPO法人北海道浜浜美化を進める会、NPO法人Ezozrock、他

【2017年度実績】2017企業・団体36,988名が参加して、北海道をキレイにしてくださいました。

私たちの北海道を私たちの手で  
世界一きれいな場所にしよう！



KITA-NET MEMBERS



尻別川の未来を考えるオビラメの会  
「南限のイトウ」個体群の復元を目指して

オビラメは、尻別川にすむイトウ（サケ科魚類）のこと。アイヌモシリ＝北海道にイトウの生息する川は数あれど、「尻別川」のイトウはほとんどペライベにちなんだ特別名称で呼ばれていた。しかし、1996年のグループ結成のきっかけは、このオビラメが名人たちの釣りに針にもつめくすり掛かなくなっていたことでした。道立水産庁水産研究員だった川村洋司さん（現・オビラメの会事務局長）らと流域をくまなく調査したものの、繁殖の痕跡はほとんど見つからず、「このままでは尻別イトウは絶滅必至」との警告が下ります。単に自然保護を叫ぶだけではもはや手遅れ。破壊された生息環境の修復という、より困難なミッションに取り組み覚悟をメンバーたちが固めたのは、オビラメを絶滅させてはならないという強い意志でした。2001年に掲げたオビラメ復元30年計画はすでに18年を終了、イトウ再導入実験世界初成功、イトウ繁殖地保護7季連続達成などの成果を挙げている。また、2030年の最終ゴール「個体群復活」を果たして解散。一まで、飛び越えるべきハードルは、まだまだいくつも残っています。

【電話】0136-44-2472  
【HP】http://obirame.sakura.ne.jp

News

きたネットの活動報告です。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金、活動の報告書が閲覧できます。



活動報告・制度説明会  
(2/20 札幌会場)

きたネット2018年度の主なイベントスケジュールです。  
詳細はHPや、きたネットFacebookなどでお知らせします。

Event

- ・6/3(日) ラブアース・グリーンアップin北海道「こみ拾いビーチウォーク」 会場：石狩市石狩浜
- ・6/16(土) 2018年度通常総会 会場：未定・札幌市内
- ・9/22(土) 市民活動助成セミナー2018 会場：未定・札幌市内
- ・12/11(土) きたネットフォーラム2018 会場：未定・札幌市内



NPO法人 苦東環境コモンズ  
苦東の「風土」と「資源」を地域で共有する仕組みづくり

NPO法人 苦東環境コモンズは、文字通り、勇払原野「苦東」の「環境」を地域みんなが共有する「コモンズ」とみだて、土地所有者の了解のもと自ら積極的に汗を流して利活用と地域開放を続けている小集団です。

私たちの「環境」は、そのまま「風土」と換言でき、その風土は人々が土地を所有する前から、裏は土地・地域に付随する固有のものだったから、共有感覚の必然性はあったのです。これは北欧と同様に人口密度の低い北海道ならではの感覚でもあります。典型は雑木林と湿原、特にそこに自生するハスカップ群落で、いずれも古くからアリアケセスのコモンズとして利用されてきました。放棄される雑木林と乾燥する原野のハスカップに当然降りかかる課題に対し、年齢に応じて技術と知力を磨き、薪を作りながら美しい林と持続する環境の奉仕を目指します。この頃の小さな確信は「やればできる。コモンス林業。身近な環境改善から始めるコモンス林業は、入口は狭いけれども奥の深いフィールドです。コモンズというキーワードがこれからの地域課題を解くカギでもああるからです。

【電話】1090-6999-2765(雑音)  
【HP】http://hayashi-kokoro.com

KITA-NET CHOOSE

きたネットチョイス



2018年度の「森林・山村多面的機能発揮対策」のご案内パンフレットができました。  
ご希望の方は北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会、またはきたネットにご連絡ください。

北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会  
【HP】http://shimrin-sanson.h-green.or.jp/事業実施計画/